

《文しょうもんだい6》

文しょうもんだいを やって みよう。こたえ
を 文しょうの 中から みつけよう。

【れいだい】

つぎの 文しょうを よんで、といに こたえ
よう。

ことしの おしょう月、わたしに きた 年が
じょうは 二十六まいでした。わたしは 年がは
がきに ついて いる くじで、三とうの お年
玉きっ手シートが あたりました。お年玉きっ手
シートは 百本に 二本、あたるように なって
いるそうです。一まいだけですが、はじめて あ
たったので わたしは とても うれしくて そ
の 年がじょうを くれた あきこさんに すぐ
でんわを しました。

(1) わたしは なぜ うれしく なったのですか。
□に入る ことばを かこう。

が あたったから

(2) わたしは だれに でんわを しましたか。

【こたえ】

(1) お年玉きっ手シート

(2) あきこさん

【かいせつ】

文しょうの つぎの ばしょに かかれて い
ます。

ことしの おしょう月、わたしに きた 年が
じょうは 二十六まいでした。わたしは 年がは
がきに ついて いる くじで、三とうの お年玉
きっ手シートが あたりました。お年玉きっ手シ
ートは 百本に 二本、あたるように なって
いるそうです。一まいだけですが、はじめて あ
たったので わたしは とても うれしくて そ
の 年がじょうを くれた あきこさんに すぐ
でんわを しました。

つぎの 文^{ぶん}しょうを よんで、といに こたえよう。

あなたに もし ちょうのうりよくが あるとすれば、ほかの 人^{ひと}が ころの 中^{なか}で かんがえて いる ことが わかったり、見^みえない ものを見る ことが できたり、手^てで さわらないで ものを うごかしたり できるでしょう。

ちょうのうりよくを もって いると いう

人は むかしから います。しかし、ちょうのうりよくが ほんとうに あるか どうか ☐ まだわかりません。

(1) ☐ に 入^{はい}る 字^じを アから ウから えらぼう。

ア ヘ
イ は
ウ を

(2) ちょうのうりよくが あれば どんな ことが できますか。 ☐ に 入る ことばを かこう。

人^{ひと}が
で

かんがえて いる ことが わかったり、

を 見る ことが でき

たり、
で

ものを
できる

(3) ちょうのうりよくが ほんとうに あるかどうか、文しょうには どう かいて ありますか。文しょうの 中から みつけて かこう。

つぎの 文^{ぶん}しょうを よんで、といに こたえよう。

さむい ふゆなど 気^きおんが ひくい ときには 雨^{あめ}になる ことが なく、こおりの けっしょうの まま と ふって くる ものを ゆきと いいます。

ゆきは、くもの 中^{なか}の 水^{すい}じょう気が こおって できた こおりの けっしょうです。

だいたい、ちじょうの 気おんが れいどよりも ひくい ときに ゆきと なります。

(1) ゆきは どんな ときに ふって きますか。

アから ウから えらぼう。

ア 気おんが いちどの とき

イ 気おんが ひくい とき

ウ あたたかい とき

(2) に 入^{はい}る ことばを、アから ウから えらぼう。

ア ぱらぱら
イ ひゅうひゅう
ウ ざあざあ

(3) だいたい ちじょうの 気おんが、なんとよりも ひくい ときに ゆきと なりますか。



つぎの 文^{ぶん}しょうを よんで、といに こたえよう。

ほかの 人^{ひと}が ころの 中^{なか}で かんがえて
いる ことが わかったり、見^みえない ものを
見る ことが できたり、手^てで さわらないで
ものを うごかしたり できる 力^{ちから}の ことを
ちようのうりよくと いいます。

ちようのうりよくを もって いると いう
人は むかしから います。しかし、ちようのう
りよくが ほんとうに あるか どうかは まだ
わかりません。

(1) ちようのうりよくは どんな 力^{ちから}ですか。 □
に 入^{はい}る ことばを かこう。

人^{ひと}が
で

かんがえて いる ことが わかったり、

を 見る ことが でき

たり、
で

ものを
できる 力^{ちから}

(2) ちようのうりよくを もって いると いう
人は いつから いますか。

(3) ちようのうりよくが ほんとうに あるか
どうか、文しょうには どう かいて ありま
すか。文しょうの 中から みつけて かこう。



つぎの 文^{ぶん}しょうを よんで、といに こたえよう。

さむい ふゆなど 気^きおんが ひくい ときには 雨^{あめ}になる ことが なく、こおりの けっしょうの まま ぱらぱらと ふって くる ものを ゆきと いいます。

ゆきは、くもの 中^{なか}の 水^{すい}じょう気が こおつて できた こおりの けっしょうです。

だいたい、ちじょうの 気おんが れいどよりも ひくい ときに ゆきと なります。

(1) ゆきは どんな ときに ふって きますか。
文しょうの 中を さがして アから ウから えらぼう。

ア あたたかい とき

イ くらい とき

ウ 気おんが ひくい とき

(2) ゆきは どうやって できた 物^{もの}ですか。
☐ に 入^{はい}る ことばを かこう。

ゆきは、

の

が

できた もの

(3) だいたい ちじょうの 気おんが、なんとよりも ひくい ときに ゆきに なりますか。



つぎの 文^{ぶん}しょうを よんで、といに こたえよう。

なつの よ空^{ぞら}に かかせない ものの 一つ^{ひと}として、花火^{はなび}が あります。花火には いろいろな 大きさ^{おお}さや かたち^{かたち}が あります。

花火に なくては ならない 火^かやくは、ちゅうごくで はつめいされました。火やくは、むかしから せんそうの ために つかわれて きましました。

火やくを、花火として つかい はじめたのは、イタリアだと いわれて います。

(1) 火やくは どこで はつめいされましたか。
文しょうの 中^{なか}から みつけて かこう。

(2) 火やくは いつから なんの ために つかわれて きましたか。文しょうの 中から みつけて かこう。

から
の ために つかわれて

きました

(3) 火やくを、花火として つかい はじめたのは、どこの くにですか。文しょうの 中から みつけて かこう。



つぎの 文^{ぶん}しょうを よんで、といに こたえよう。

なつは 花火^{はなび}たいかいが いろいろな ところでおこなわれます。せんこう花火や ねずみ花火で たのしんだ 人^{ひと}も いるのでは ないでしようか。

そんな 花火に なくては ならない 火^かやくは、ちゅうごくで はつめいされました。火やくは、むかしから せんそうの ために つかわれて きました。

火やくを 花火として つかい はじめた くには イタリアだと いわれて います。

(1) 火やくは どこで はつめいされましたか。
文しょうの 中^{なか}から みつけて かこう。

(2) 火やくは いつから なんの ために つかわれて きましたか。文しょうの 中から みつけて かこう。

きました

の ために つかわれて

から

(3) 火やくを 花火として つかい はじめた くには どこですか。文しょうの 中から みつけて かこう。